

ところで、御影堂や阿弥陀堂の樋は、人が通り抜ける向拝など必要最小限の箇所しか取り付けられておらず、それ以外の箇所は、石組の側溝（さわみち）により雨落（あまふち）を受けています。これは、軒先の曲線美や建物を美しく見せるための工夫と推測されます。

阿弥陀堂の樋は銅製で、北側屋根の一部にも箱型の軒樋（のきどい）が設置されています。修復にあたり調査したところ、長年の経過によって一部には腐食が進行し、穴が開いている箇所もありましたが著しい損傷は見受けられませんでした。

しかし、阿弥陀堂北西部では、阿弥陀堂の屋根から落ちた雨水に



水返し羽根

修復方法としては、樋を一旦取り外して修理し、腐朽劣化への対応策として軒樋内にステンレス製の内樋を新調したあと、勾配（こうばい）を整して取り付けます。さらに、樋の傷みが、部分的であっても全体を取り降ろした大掛かりな工事が必要となることもあり、その対策として、よく傷む平瓦筋の雨落箇所（あまふち）に水返し羽根（みづかえし）（※写真右参照）を取り付け、三重にして樋の長期保全性の確保も行いました。

また、阿弥陀堂西側には樋そのものが取り付けられていなかったため、風が強いと雨が軒の下まで入り込み、漆喰の壁が濡れてしまふことよって、基壇や基礎部



樋を取り付けた後

よって、阿弥陀堂と接続している廊下部分の屋根に著しい損傷が確認されたため、阿弥陀堂に設置されている樋の修復とともに、新たな対策が必要になりました。

分を湿潤させる原因となっていました。このため、北西部の対策とともに西側に樋を新設して、建物自体の長期保全性の向上を目指すこととなりました。

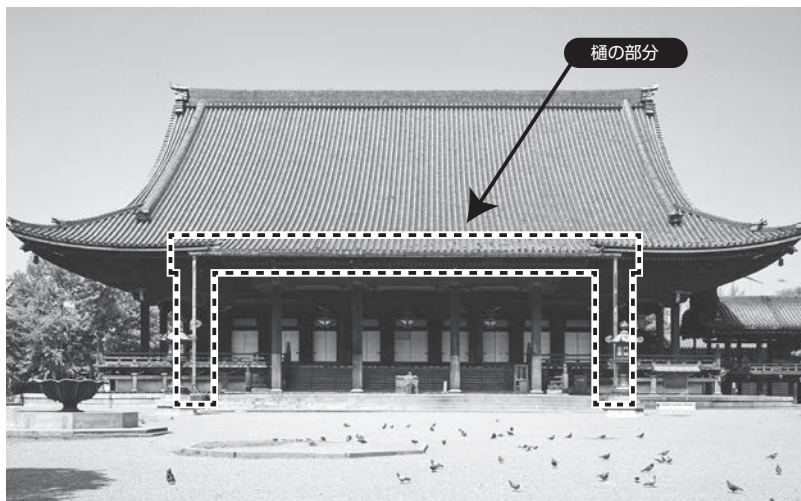
次世代の修復まで、樋も建物も健全な状態を保つことが期待されています。



御修復のあゆみ

く 伝承された先達の願い

阿弥陀堂の樋工事が進む



修復前の阿弥陀堂

阿弥陀堂では、いよいよ工事も残すところ一年となりました。すでに屋根改修工事も無事に終了し、今後は内部の工事（内陣・外陣美掃等）を中心に進めつつ、この一月からは仮設素屋根の解体工事に着手しています。

昨年末、阿弥陀堂金属工事として、阿弥陀堂の軒先にある樋（と）の修復と最終の取り付けが行われました。

樋とは、屋根面に降った雨水をスムーズに軒先部分で寄せ集め

て、地面や排水口へと排水する機能をもつものです。この樋がないと、軒先の下部では落ちた雨が地面に溝をつくり水溜りとなって、その結果、建物の基礎部分や縁の下、時には外壁そのものを濡らします。じめじめとした湿気によって建物の腐食が進むこととなります。

草葺き屋根や茅葺き屋根などの昔の屋根は、それ自体が一定程度水分を吸収することや、軒先をいろいろな作業場として利用する生活スタイルであったことから、庇（ひさし）が長く張り出しており、雨樋（あまどい）を特に必要としないものでした。しかし、寺院等の建物は瓦葺きが多く、雨水の処理が必要になって



樋を取り付ける前

機能も発展してきたものと考えられます。

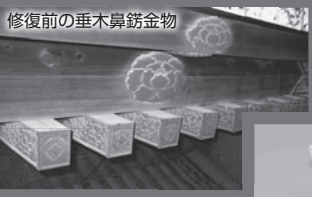
阿弥陀堂御修復「指定寄付のお願い」

※阿弥陀堂・御影堂門御修復懇志のご協力をお願いします。

阿弥陀堂の御修復に伴い、「工事」並びに「仏具」を対象とした指定寄付（174口：1口100万円）と垂木鼻 錆金物（たるきばなざりがなもの）（1,240口：1口5万円）を対象とした指定寄付を募集しております。

全国の有縁の皆様より尊いご懇念を賜りますよう、何卒ご奨励、ご協力をお願いいたします。

【お問い合わせ】 組織部（Tel.075-371-9185）



修復前の垂木鼻錆金物



修復後の垂木鼻錆金物

